

豊島：自然の真っ只中の鼓動

豊島は、その面積よりはるかに大きな小豆島の西方 3.7 キロのところにあります。人口はわずか 800 人で、手つかずの自然環境ときれいな地下水が豊富なことで長年その名が知られていました。島の真ん中にある壇山周辺からの湧き水は、豊島の畑の灌漑に今でも使用されています。そうした畑では米、そしてレモンやイチゴなどの果物が栽培されています。しかし 1970 年代には、島の西部が不法投棄場として利用されるようになってしまいました。廃棄物問題が悪化する中、豊島の人々はゴミの投棄を防ぎ、地域環境を復活させるための方策を講じました。現在まで続くこうした努力のおかげで、島の生態系をかつての健全な状態に戻すことに成功しています。もう一つの前向きな進歩としては、2010 年から島にいくつかのアート関連施設を設立していることが挙げられます。その中には、アーティストの内藤礼（1961 年生）と建築家の西沢立衛（1966 年生）の共同設計による豊島美術館、そしてフランスの芸術家クリスチャン・ボルタンスキー（1944 年生）が記録した世界中の人々の心臓音を聞くことができる美術館「Les Archives du Coeur」（「心臓音のアーカイブ」）があります。青木野枝の「空の粒子／唐櫃」（1958 年生れ）や森万里子の「トムナフーリ」（1967 年生）など、豊島には屋外作品もいくつかあります。